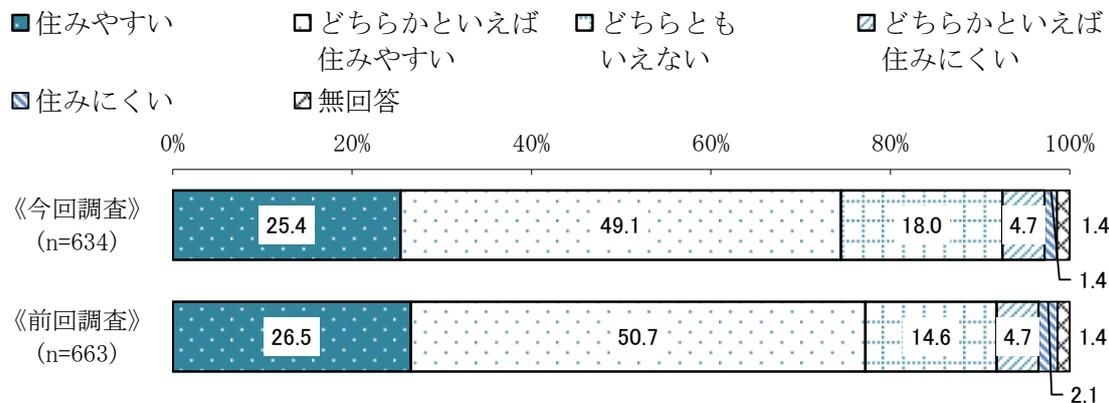
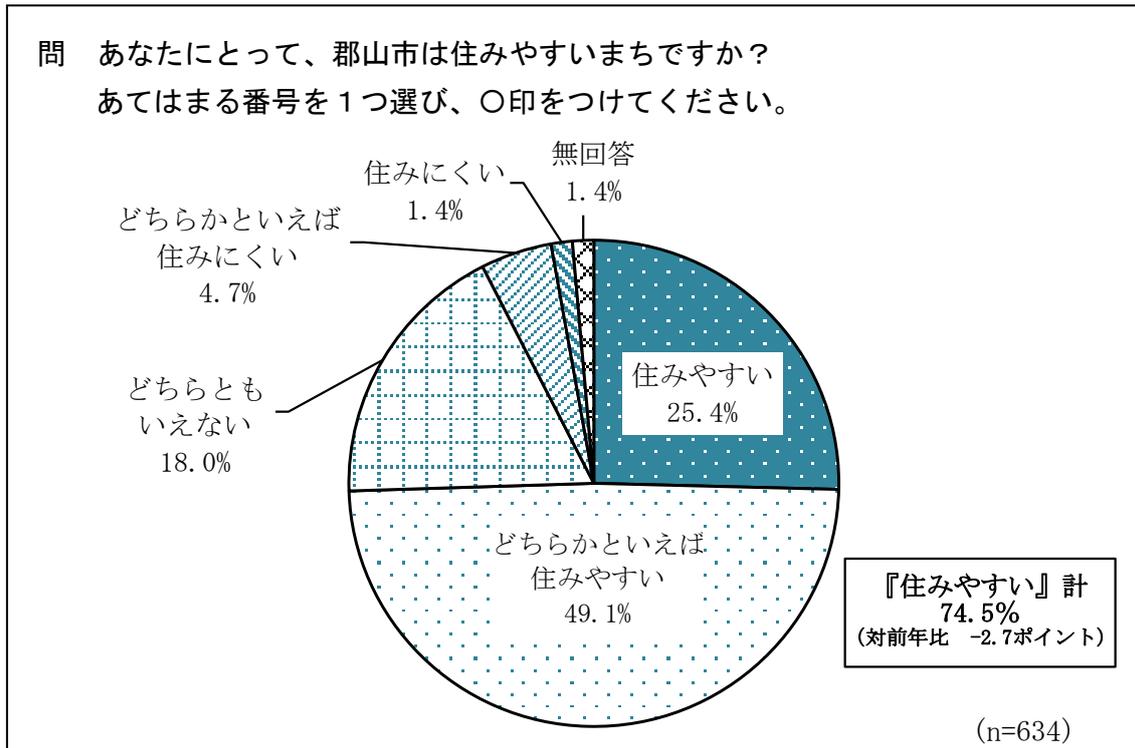


2. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価



7割強の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

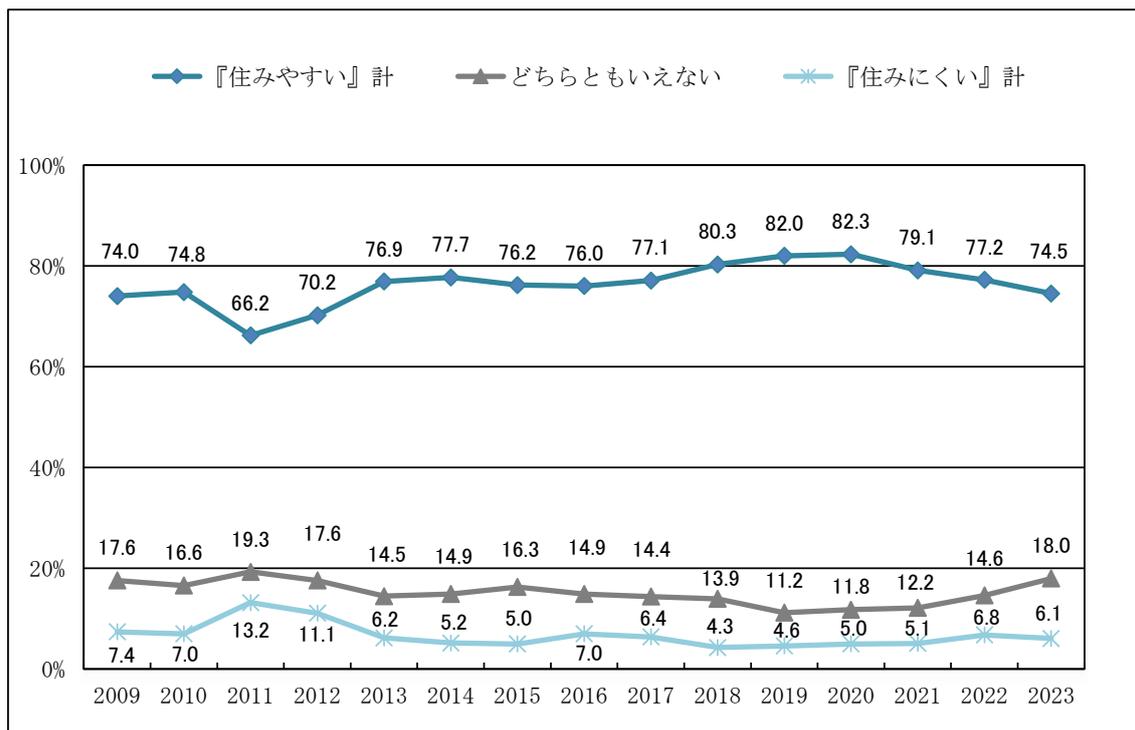
【全体結果】

郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(25.4%)と「どちらかといえば住みやすい」(49.1%)の両者を合計すると『住みやすい』(74.5%)となっています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.7%)と「住みにくい」(1.4%)を合計すると『住みにくい』(6.1%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』の合計ポイントは2.7ポイント低下しています。また、過去の調査結果との比較では、2016年から上昇傾向だったが、2020年をピークに低下しています(図2-1参照)。

図2-1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図2-2 参照）

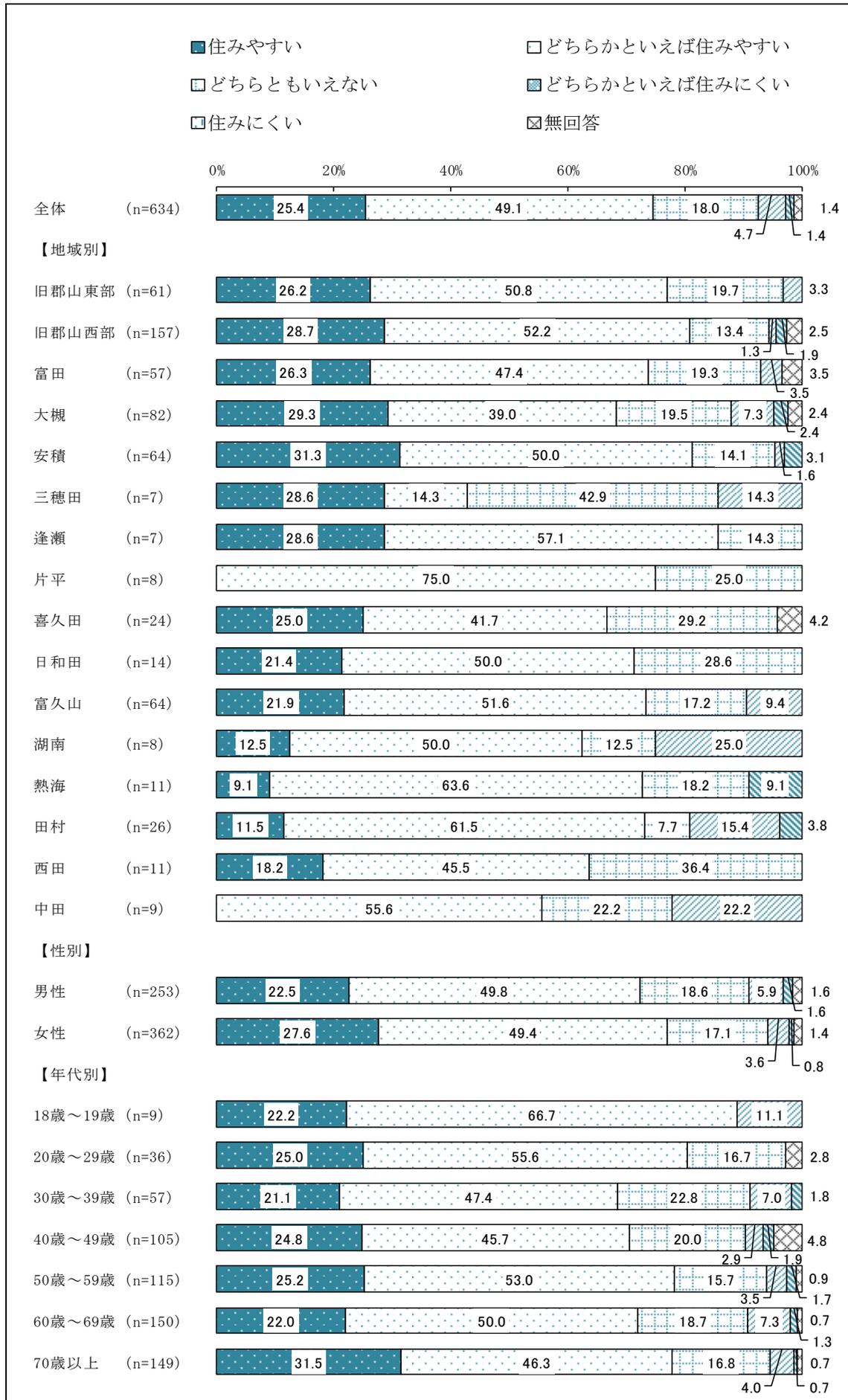
① 性別

『住みやすい』の割合は、女性（77.0%）の方が男性（72.3%）よりもやや高くなっています。

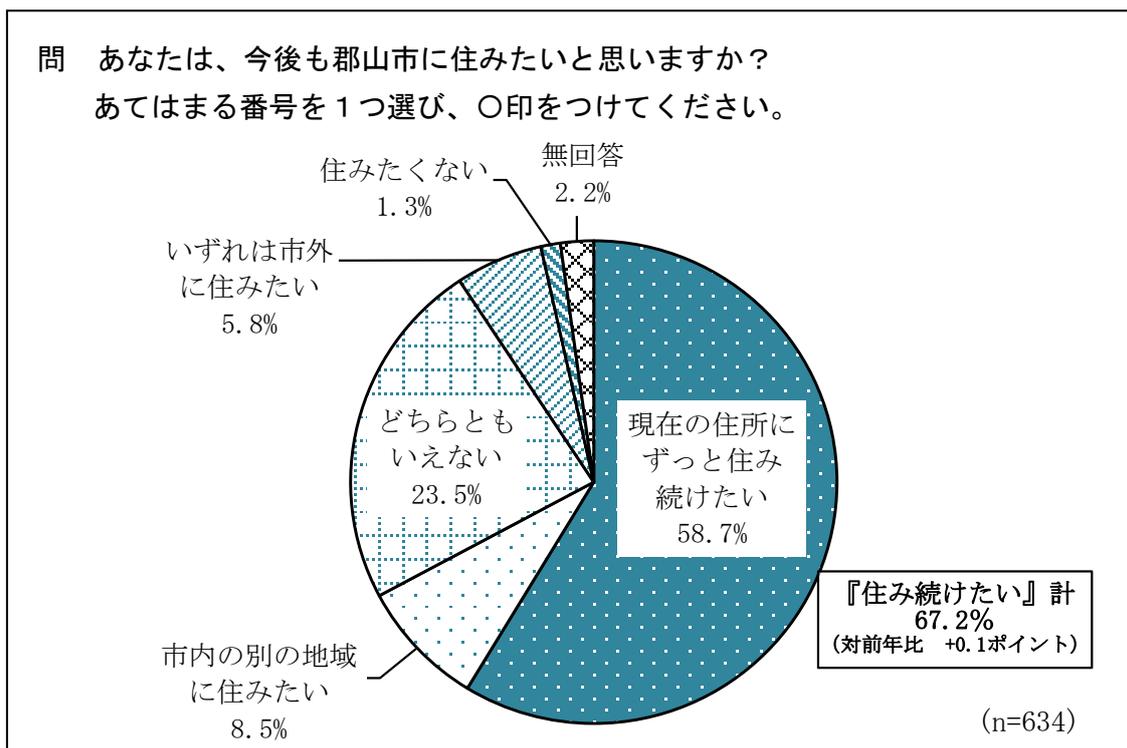
② 年代別

『住みやすい』の割合は、20代（80.6%）で最も高くなっています。

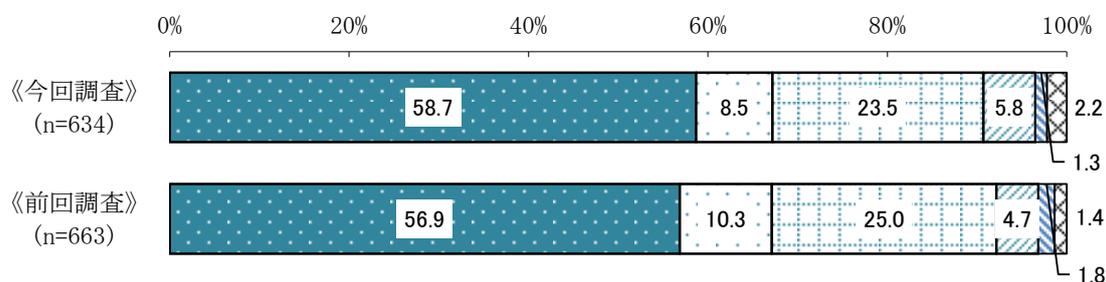
図2-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居留意向



- 現在の住所にずっと住みたい
- 市内の別の地域に住みたい
- どちらともいえない
- いずれは市外に住みたい
- 住みたくない
- 無回答



——— 7割弱の市民は今後も郡山市内に住み続けたいとしている ———

【全体結果】

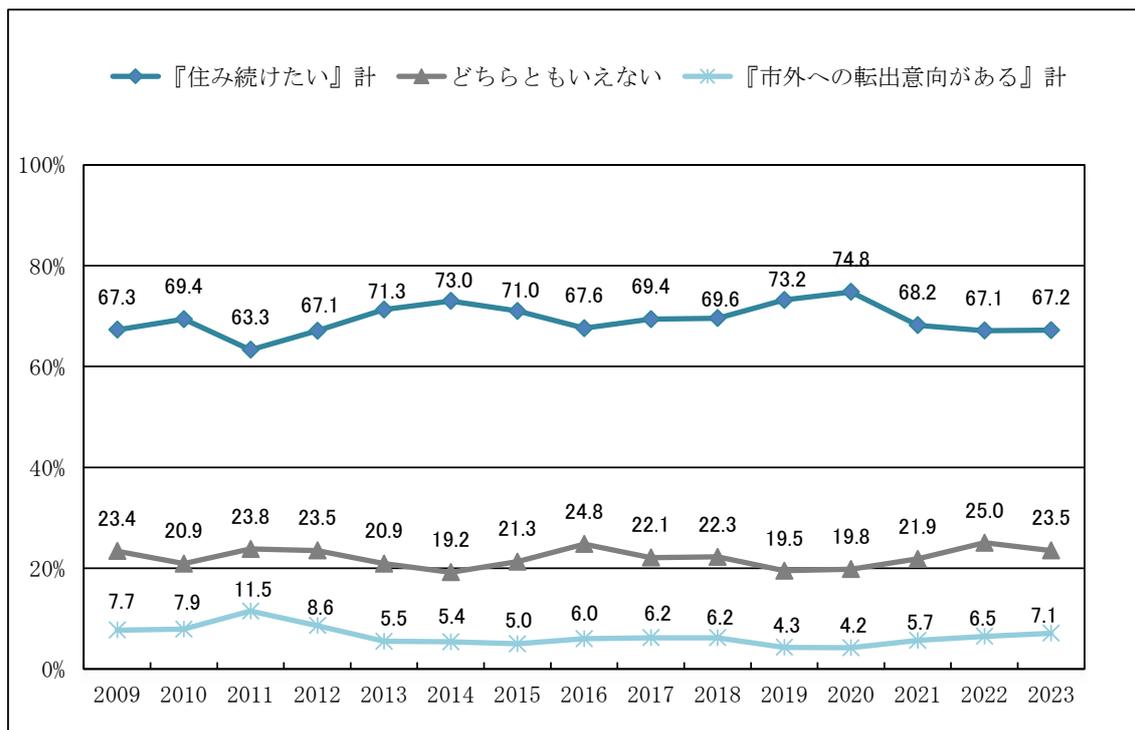
今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては「現在の住所にずっと住み続けたい」(58.7%)と「市内の別の地域に住みたい」(8.5%)の両者を合計すると『住み続けたい』(67.2%)となっています。

前項の『住みやすい』の合計と比較して、大きな差は見られませんでした。

一方、「いずれは市外に住みたい」(5.8%)と「住みたくない」(1.3%)を合計すると『市外への転出意向がある』(7.1%)となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』の合計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』の合計は2011年をピークに減少していましたが、2020年以降上昇傾向となっています(図2-3参照)。

図 2-3 今後の居留意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-4 参照）

① 性別

『住み続けたい』の割合は、女性（68.5%）の方が男性（65.6%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

『住み続けたい』の割合は、70代以上（79.9%）で最も高く、次いで60代（72.7%）が続き、高齢層で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』の割合は、20代（16.7%）で最も高くなっています。

図2-4 今後の居留意向（地域別／性別／年代別）

